

# 1 蛮族の花嫁

2 ※現場でセリフが変わることもあるため、実際に使用  
3 した脚本と異なる部分がある可能性があります

## 4 【登場人物】

5 ◆バラム (30歳)

6 185 cm

7 105 kg

8 騎馬民族アギーラ族の長。ゴリゴリのムキマツチヨ。

9 騎馬も戦闘も狩猟も全てにおいて群を抜いた実力の持ち主で、

10 『力こそ全て』がモットーの草原の民の間では『草原の王』と  
11 慕われている。

12 一族の女みんな抱いてきたくらい勢いだが、妻はまだいな  
13 ず。

14 運悪く草原に足を踏み入れたヒロインをいたく気に入り、騎士  
15 から略奪して自分の花嫁とする。

16 草原の王たる自分の妻になることは光栄なことだし、きっとヒ  
17 ロインも嬉しいはずだと思っている。基本的に人の話を聞か  
18 ないため、自分とヒロインの間にある文化の隔たりなども理解で  
19 きないし、しようとしなない。

20 ヒロインが泣いて嫌がっても、その内自分の強さに屈服するだ  
21 ろうと、獣の調教程度に考えている。

22 身内には寛容だが、裏切りは決して赦さないと冷酷な面も  
23 持つ。

24  
25  
26  
27  
28  
29  
30

1 ◆ンル (22)  
2 175 ㎐  
3 75 ㎏  
4 バラムの異母弟にして、右腕的存在。細マッチョ。  
5 軽薄かつお調子者で女好き。兄ほどではないがそれなりにモテ  
6 る。ぱっと見の印象は優しげな好青年で、自分でもそれを自覚  
7 している。  
8 ヒロインの祖国によって実母を殺された過去がある。  
9

10 ◆ユリウス (20)  
11 180 ㎐  
12 85 ㎏  
13 某王国の近衛騎士。  
14 姫（ヒロイン）が幼い頃から護衛を務めており、その間、静か  
15 に愛情を育んでいた。  
16 しかしヒロインの政略結婚が決まり、このまま引き裂かれるく  
17 らいならと、意を決して駆け落ちを決行。  
18 追っ手のかからない草原を突っ切ろうとしていた際、バラムの  
19 配下たちにヒロインもろとも捕らえられる。  
20 若く熱血気質な騎士だが、お坊ちゃん育ちゆえに見通しが甘く  
21 心折れやすい。  
22 ヒロインとは清い仲。  
23  
24

25 ◆ヒロイン  
26 某小国の王女。  
27 護衛のユリウスと将来を誓い合った仲だったが、父の決めた縁  
28 談によって他国へ嫁がなければなくなる。  
29 好きでもない相手と結婚するくらいならと、ユリウスの提案し  
30 た駆け落ち計画に賛同するが、蛮族につかまる。  
31  
32

1 ●トラック1 冥暗にふたり (4分)

2 夜闇に紛れて駆け落ちするヒロインとユリウス。  
3 馬車で遠い国まで逃げようとするも、  
4 突然の襲撃によって気を失ってしまう。  
5 再び目覚めた時、ふたりは牢獄に捕らえられており、  
6 蛮族の王がヒロインに取引を持ちかける。

7  
8 場所…冬の草原  
9 時間…夜更け  
10

11 SE: 馬車が走る音

12 SE: カーテン開ける音

13  
14 【馬車で隣り合っているヒロインとユリウス。ユリウ  
15 スは窓から外の様子を見ている】  
16

17 【11 ヒロインに背を向けながら】  
18 ユリウス【窓の外を見つめながら独り言】  
19 ……ようやく草原か」  
20

21 SE: カーテン閉める

22  
23 【11 ヒロインを見て】  
24 ユリウス「姫さま、もう大丈夫です。  
25 ここまで来れば、城からの追っ手も  
26 付いては来られないでしょう」  
27  
28

29 【ヒロイン頷く】

30  
31

1 【11】  
2 ユリウス「そんなに隅っこに座っていたら、  
3 寒いでしょう」

4  
5 【ヒロインを優しく抱きよせる】

6  
7 【3 ヒロインの肩を抱く】  
8 ユリウス「さあ、こっちにきて、  
9 もっと私にくっついて。  
10 もう、人目を忍ぶ必要も  
11 なくなったのですから」

12  
13 【1 ヒロインと向き合う】  
14 ユリウス「ああ、手がこんなに冷たくなってる。  
15 手、にぎりますね」

16  
17 【ユリウス、ヒロインの手に息を吹きかけ、さすって  
18 温める】

19  
20 ユリウス「こうすると、少しは温かいでしょう？」

21  
22 【ヒロイン頷く】

23  
24 ユリウス「よかった。

25 姫様、どうか……  
26 何かつらいことがあったら、我慢しないで  
27 ちゃんと私を頼ってください。  
28 もう、私と姫様の二人だけなんですから」  
29  
30  
31  
32

1 【1】

2 ユリウス「キスしながら」

3 こうして……ん……ちゅ……  
4 口づけしていても……ちゅ、ちゅ……  
5 私たちを咎める者はいない……。  
6 恥ずかしくないで、姫様。  
7 あなたのその、かわいらしい唇を開いて、  
8 私の舌を受け入れてください」

10 【二十秒ほどデープキス】

11  
12 ユリウス「ん……はあ……。  
13 すみません、がつついて。  
14 ようやく姫さまを独り占めできると  
15 思ったら、我慢が効かなくて」

17 【ヒロイン少し笑う】

18  
19 ユリウス「ちょっと拗ねて」笑わないでください。  
20 あなたとこうして身を寄せ合えるなんて、  
21 以前は考えられなかったんですから」

23 【ヒロイン「後悔してない？」】

24  
25 ユリウス「後悔なんて、するはずありません。  
26 私は姫様の騎士です。  
27 姫様だけの。  
28 あの国に留まることでああなたが不幸に  
29 なるのなら、あなたを連れ去って  
30 喜んで罪人と呼ばれましょう」

1 【1】

2 ユリウス「不安そうに」

3 姫様こそ……本当に、  
4 私でよいのですか？

5 国を追われる身となった私は、

6 あなたに豊かな暮らしを

7 させてあげられないでしょう。

8 おぞましい政略結婚から逃れるために、

9 私を愛するふりをしていたのなら、

10 どうか、そうおっしゃってください。

11 私はそれでもかまわない。

12 今後もあなたの騎士として、

13 あなたに仕え続けます」

14 SE： 軽く頬を叩く音

15 【ヒロイン、愛を疑われて泣きそう】

16 ユリウス「痛った……」

17 【慌てて】す、すみません。

18 姫様の愛を疑ったわけでは……！

19 ただ……【溶けるように】幸せすぎて」

20 ユリウス「町についたら、すぐに結婚式を

21 あげましょう」

22 【1】

23 ユリウス「それで、あの……国を出られたら、

24 渡そうと思ってた物があるんです」

25 SE： ネットクレス出す音

1 【1】  
2 ユリウス「これ、母の形見のネックレスで……  
3 結婚式の日、つけてもらえたらなって。」  
4

5 SE: 遠くから複数馬が迫ってくる  
6

7 【1】  
8 ユリウス【はっとして】蹄の音がする……」  
9

10 【ユリウス、ヒロインに背を向け、窓の外を見る】  
11

12 【1↓9 ヒロインに背を向けて】  
13 ユリウス「まさか、追っ手が……!?!」  
14

15 SE: 馬車の窓開けて身を乗り出す  
16

17 【ユリウス、窓から身を乗り出し、御者に声をかけ  
18 る】  
19

20 【9 ヒロインに背を向けて、御者に】  
21 ユリウス「おい、どうなってる！  
22 状況を説明し……うわ！」  
23

24 SE: 弓矢が木製の馬車に突き刺さる音  
25

26 【窓に矢が付き立ち、慌てて顔をひっこめるユリウ  
27 ス】  
28

29 【1 ヒロインに背を向けて】  
30 ユリウス【苦々し気に】今のは……  
31 草原の蛮族……!?!」  
32

1

SE： 馬のいななき

2

SE： 制御を失った馬車が跳ねる

3

4

5

【ヒロイン「どうなってるの!？」】

6

【ユリウス、慌てるヒロインを抱きよせる】

8

9

【1↓3 ヒロインの頭をかばう】

10

ユリウス「御者と馬をやられました……!」

11

【切羽詰まって】姫さま、私に捕まって!

12

絶対に離れないでください!」

13

14

SE： 馬のいななき

15

SE： 馬車横転

16

17

ユリウス「——うわあああああああ!……!」

18

【フェードアウト】

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32



●トラック2 取引（6分）

1 馬車を襲われ、気を失ったヒロインとユリウス。  
2 目を覚ますと、天幕の中にある狭い檻の中に二人まと  
3 めて閉じ込められている。  
4 そこに、族長であるバラムと、その弟ソルがやってき  
5 て、二人を奴隷商に売り渡す話を始めるが、ヒロイン  
6 が身分を明かしたことで、バラムはヒロインを花嫁に  
7 することに決める。

10 時間…いつでも

11 場所…天幕の中にある檻

12  
13 【ユリウス、気を失っているヒロインを揺り起こす】

14  
15 【3 耳元で 声を潜めるように】  
16 ユリウス「姫さま……姫さま……！」

17  
18 【ヒロイン目を覚ます】

19  
20 ユリウス「ああ、よかった……。  
21 目を覚まさなかったら、  
22 どうしようかと……。」

23 【心配そうに】どこか、痛いところは  
24 ありませんか？」

25  
26 SE：ヒロインが飛び起きる衣連れ

27  
28 【ユリウス、「ユニ」はどっ？」とよろたえるヒロインを  
29 優しくなだめる】  
30  
31

1 【1】  
2 ユリウス「しい……！」

3 大丈夫、落ちついてください。  
4 草原の蛮族に襲われたんです。  
5 姫様も、聞いたことがあるでしょう？  
6 よく商人を襲うからと、王が討伐隊を  
7 出したこともある——」

8  
9 【ヒロイン「アギーラ族？」】

10  
11 ユリウス「そう……それです。  
12 アギーラ族。  
13 だから、私たちはむしろ運がいい。  
14 彼らが奪うのは金品だけで、  
15 人は傷つけずに解放することで有名です。  
16 ほかの盗賊に襲われるくらいなら、  
17 アギーラ族に襲われた方がマシだからと、  
18 商人はわざわざ選んで  
19 この草原を通るくらいですから。  
20 心配しないで。  
21 すぐにこの檻からも出られます」

22  
23 SE： 天幕の外から近づいてくる足音

24  
25 ユリウス「誰か来る……何か質問されても、  
26 口がきけないふりをしてください。  
27 すべて私に対応しますので」

28  
29 【天幕の入り口にあたる重たい布を押し開けて、二人  
30 の男が入ってくる】  
31  
32

1 SE… 天幕の入り口

2  
3 ソル「ああほら、見なよ兄さん。  
4 二人とも目、覚ましてる」

5  
6 SE… 足音ヒロインたちの目の前で止まる

7  
8  
9 【10 数歩離れて二人を見下ろす】

10 ソル「金目のものは特に持ってなかったけど、  
11 この二人、結構いい値が付きそうじゃない？」  
12

13 【16 数歩離れて二人を見下ろす】

14 バラム「ふん……」

15 確かに、悪くない。

16 奴隷商は呼んであるのか？」

17  
18 ソル「使者を送ってあるから、今日中には  
19 こられるんじゃないかな」  
20

21 【ユリウス、奴隷商人に売られる流れだと気づいて慌  
22 てる】  
23

24 【3 16見ながら】

25 ユリウス「ま、待ってくれ！ あなたたちは

26 アギーラ族だろう！？

27 略奪はすれど、人は傷つけぬ

28 誇り高い部族として知られる

29 あなたたちが、人身売買に手を染める

30 のか！？」

31  
32

1  
2  
3 【16 数歩離れて二人を見下ろす】  
4 バラム【見下し】なるほど、商人の流した噂をうのみ  
5 にした愚か者か」

6 【3 16を見ながら】  
7 ユリウス「な……!？」  
8

9 【16 3を見ながら】  
10 バラム「俺が解放するのは、命の対価を払った者  
11 だけだ。無論、商人どもは旺盛に噂を  
12 流すだろう。往来が増えれば、自分たちが  
13 襲われる可能性も下がるのだからな」  
14

15 バラム「だが、貴様は俺に何を払える？  
16 俺は王として、狩りに出た臣下を  
17 ねぎらわねばならん。  
18 よもや——」  
19

20 SE:ペンダント出す音  
21

22 バラム「こんな粗末な首飾り一つで、  
23 命が買えるとは思っていないだろうな」  
24

25 【ユリウス。バラムが出したペンダントを見て、檻に  
26 飛びつく】  
27

28 【3↓1 ヒロインに背を向けて】  
29 ユリウス「そ……それは私の母の形見だ！  
30 返せ！ 汚らわしい手で触れるな！」  
31

32 SE:ガシヤンと檻がきしむ音

1  
2  
3 【16 1を見ながら】  
4 バラム【侮蔑】返すとも。  
5 このような粗末な品に用はない」

6 【16 1を見ながら】  
7 バラム「貴様のその細い首にこれをぶら下げ、  
8 女のように着飾らせたいうえで、  
9 男としての象徴を切り落とし、  
10 男色家に売ってやる——っ」と

11  
12 【ヒロイン「やめてください！」と叫び、前に出る】

13  
14 SE：激し目の衣擦れ

15  
16 【1 ヒロインを見下ろす】  
17 バラム「なんだ、女。  
18 そう慌てずとも、お前の処遇も  
19 後で決めてやる。  
20 その器量では、  
21 男ほど値が付くかはわからんが、  
22 その時は——（手下どもの慰み者だ  
23 と言いかける）」

24  
25 【ヒロイン、自分の身分を明かし、自分を国に送り返  
26 せば報奨金ももらえるから、その男は助けてくれと訴  
27 える】

28  
29 バラム「姫……？ お前が？」

30  
31  
32

1  
2  
3 【3 1を見ながら】  
4 ユリウス「慌てて」よせ！ その女の話を信じるな！  
5 自分は姫だという妄想にとりつかれて  
6 いるだけの、あわれな町娘だ！」

7 【1 ヒロインを見たままで、ユリウスは見ない】  
8 バラム「鋭く」黙れ。この女が  
9 狂人ではないことくらい、  
10 目を見れば明らかだ」  
11 なるほど……妙な組み合わせだと思っただが、  
12 姫と、その従者か」

13  
14 【バラム、しゃがみ込んでヒロインの顔を覗き込む】  
15

16 【1 至近距離】  
17 バラム「確かに、お前たち二人を国に送り返せば  
18 報奨金を得られるだろう。  
19 だが、我らアギーラ族は強国に媚びる  
20 ことをよしとはしない。  
21 せっかくだが、姫君の提案はお断りしよう。  
22 お前は俺の戦利品だ。  
23 どこにも行かせはしないと、今決めた。  
24 お前は——」

25  
26 【3 耳元】  
27 バラム「俺の花嫁になるのだ」  
28

29 【9】  
30 ソル「ちよ、ちよっと待ってよ、兄さん！  
31 本当にその女を花嫁にするつもりなの？」  
32

1  
2 【1】  
3 バラム「俺を信じろ、ソル。  
4 これはお前のためにもなる取り決めだ」  
5

6 【3】  
7 ユリウス「ふ……ふざけるな！  
8 この方は、本来、貴様のような下郎が目を  
9 触れる事も許されぬ——」  
10

11 SE： 剣シャキーン

12  
13 【剣を突きつけられ、黙るユリウス】  
14

15 【3】  
16 ユリウス【息を呑む】  
17

18 【1 3を睨みながら】  
19 バラム「黙れ。女一人守れぬ虫けらが。  
20 舌を切り落とされたいのか」  
21

22 【1 再びヒロインを見る】  
23 バラム【優しく】お前が俺の妻になるのなら、  
24 この下僕はお前の奴隷として  
25 無傷のまままで生かしてやろう。  
26 どうする？ 異国の姫よ。  
27 無理強いはしない。決めるのはお前だ」  
28

29 ユリウス「駄目だ、姫様……！」  
30

31 【ヒロイン頷く】  
32

1 【1】

2 バラム「そう、いい子だな。

3 それでこそ我が花嫁だ」

4  
5 ユリウス【悲痛】 ああ……そんな……っ」

6  
7 【バラム、ヒロインとの交渉を終え、立ち上がる】

8  
9 【1 立ち上がりながら】

10 バラム「ソル、檻を開けてやれ。

11 俺は婚礼の宴の準備をする」

12  
13 【9↓1】

14 ソル「はい、兄さん」

15  
16 SE：天幕を出ていくバラムの足音

17 SE：天幕の布の上げ下ろし

18  
19 【1】

20 ソル「はい、じゃあお姫様も婚礼の準備ね」

21  
22 SE：牢の鍵開ける音

23 SE：檻のドア開ける

24  
25 【5 ヒロインに追いつきながら】

26 ユリウス「やめろ！ 姫様を離せ！」

27  
28 【1】

29 ソル「やめておきなよ。せつかくお姫様が  
30 守ってくれたのに……」

31 今抵抗して殺されるより、

32 とりあえず生き延びて脱走でも企めば？」



1  
2 ユリウス「黙れ！」

3  
4 ソル「黙るのはそっちだ。

5 兄さんの気が変わったら、

6 あんたは奴隷に落とされて、

7 お姫様は若い戦士の慰み者にされる」

8  
9 ユリウス「それは……」

10  
11 【ソル、ヒロインを檻から引っ張り出し、再び檻のカ  
12 ギをしめる】

13  
14 【1↓7 すれ違うように】

15 ソル「ほら、お姫様はこっち」

16  
17 SE:引っ張られる衣擦れ

18 SE:檻のドア閉める

19 SE:カギ閉める

20  
21 【7 肩を抱く距離】

22 ソル「丁度、略奪品の中に

23 お姫様に似合いそうな花嫁衣装がある。

24 族長であるバラム兄さんに

25 恥をかかせないように、

26 目いっぱいオシャレしないとね」

27  
28 【5↓12 遠ざかりながら】

29 ユリウス「姫様……姫様あ！」

30  
31 SE:足音

32 SE:天幕の重たい布を開ける

### ●トラック3 花嫁（17分）

1  
2 初夜。  
3 酒やご馳走でもてなされたヒロインは、バラムと初夜  
4 を迎える。  
5 せめて快楽にあらがい、相手を退屈させようと心に決  
6 めるヒロインだが、薬に混ぜられていた媚薬により快  
7 楽に屈する姿を嘲笑されながら落ちていく。

8  
9  
10 場所…天幕の中  
11 時間…夜更け

12  
13 【先に天幕に下がっていたヒロインのもとに、宴を終  
14 えて戻ってくるバラム。ヒロインはベッドの上で姿勢  
15 を正して座ったまま目を伏せている】

16  
17 SE…遠くで宴のざわめき（一瞬間こえてすぐ消すか、  
18 環境音的にずっと流すか応相談）

19 SE…近づいてくる足音

20 SE…天幕に入る

21  
22 【バラム、部屋の隅でうずくまってるヒロインを見つ  
23 つけ、侮るような口調でなぶる】

24  
25  
26 【6】  
27 バラム「——なんだ、起きていたのか。  
28 どうした？

29 部屋の隅でそんな風に丸くなって。  
30 寝台で俺を待ってればよかったものを」  
31

1  
2 【ヒロイン「あなたを待つなんて、するはずがない」】  
3

4 【9↓1 ヒロインに歩み寄る】

5 バラム「体調がすぐれぬというから、  
6 早めに天幕に下がることを許したが……  
7 我が妻は、夫が用意した婚礼の宴がよほど  
8 気に入らなかったと見える」  
9

10 SE：歩み寄る足音

11 SE：しゃがむ衣擦れ

12  
13 【1】

14 バラム「ほら、今日の獲物の一番いいところだ。  
15 一族のならわしで、  
16 花嫁が食うことになっている。  
17 力をつけ、強い子を産めるようにな」  
18

19 【ヒロイン「食欲がない」】

20 SE：ヒロインが顔をそむける衣擦れ

21  
22  
23 バラム【失笑して】「これを食わぬということは、  
24 俺の妻になる気がない、ということだな？

25 【立ち上がりながら】ならば、  
26 あの下僕は売り払おう」  
27

28 SE：立ち上がる

29 SE：縋りつく

30  
31 【ヒロイン、慌ててバラムに縋りつく】  
32

1 【1 ヒロインに背を向け、肩越しに】  
2 バラム「どうした？ 急に食欲が出てきたか？」  
3

4 【1 振り向き、ヒロインの顔を見る】  
5 バラム「かわいい妻のワガママだ。」  
6

7 一度くらいは見逃そう。  
8 だが、次に逆らえば、お前は計り知れない  
9 後悔を味わうことになる」

10 【3】  
11 バラム【静かに脅す】鹿肉の代わりに、  
12 あの騎士から切り取った  
13 睾丸を食わされたくないのなら、  
14 二度と俺に逆らうな」  
15

16 【ヒロイン、うなづく】  
17  
18 【1】  
19 バラム「では、花婿から花嫁に、  
20 祝いの肉をささげよう。  
21 口を開けろ」  
22

23 【不思議に思いながら口を開けるヒロイン】  
24  
25 バラム「この習わしは、その日取れた獲物の  
26 一番いい肉を花婿が口に含み、  
27 よく噛んだうえで花嫁に  
28 食わせるというものだ。  
29 無論、口移しでな」  
30  
31  
32

1 【1】  
2 バラム「このならわしを、一族外の女が  
3 どう感じるかは知っている。  
4 お上品な姫君には、  
5 想像を絶する屈辱だろう」  
6

7 バラム「野蛮さに吐き気がするか？  
8 俺が噛んだものを  
9 口に入れると想像しただけで、  
10 胃が引きつり、  
11 吐き戻しそうだろう。  
12 だが、もし吐けば——わかっているな？」  
13

14 SE：骨付き肉をかみちぎる  
15

16 【バラム、肉を頬張り、よく噛み、ヒロインに口移し  
17 で食べさせる】  
18

19 バラム「咀嚼した食べ物を、ヒロインの口に肉を押し  
20 込む。10秒程度で」  
21

22 【1 唇が触れ合う距離】  
23 バラム「ほら、飲み込め。  
24 よく味わってな。

25 あの騎士を救いたいんだろう？  
26 どうした？  
27 飲み込め、飲み込め……！」  
28

29 【ヒロイン肉を飲み込む】  
30

31  
32

1 【1】  
2 バラム「ああ……いい子だ。  
3 はっは……！ その顔。  
4 泣くほどつらいか。この程度のことか」  
5

6 バラム「おめでとう。  
7 これで、はれて俺の花嫁だ。  
8 祝い酒をくれてやろう。  
9 口を開ける」  
10

11 SE：酒瓶をあおる  
12

13 【バラム、口に酒を含み、ヒロインに口移しで飲ませ  
14 つつデープキスになだれ込む。30秒ほど】  
15

16 バラム【ヒロイン抱き寄せながら】  
17 身体が熱いな。  
18 それに、顔も赤い。  
19 思っていたより、薬の効きが早いようだ」  
20

21 【ヒロイン、怯えて「薬って？」】  
22

23 バラム「生娘が初夜で苦しまぬようにと、  
24 我が部族に伝わる媚薬だ。  
25 酒に混ぜて飲ませたから、  
26 俺にも少し回ったか……  
27 加減はしてやれそうもない。  
28 ——こう」  
29

30 【バラム、ヒロインをベッドに突き飛ばし、のしかか  
31 る】  
32

1  
2 SE:突き飛ばす

3 SE:ベッドにどさり

4 SE:のしかかる

5 SE:服ビリビリ

6  
7 【1】

8 バラム【服破く呼吸ください】

9  
10 バラム「ふん……美しいな。」

11 王が政治のコマにするため、

12 大事に育てた珠玉の体か……

13 赤く火照って……汗ばんで……」

14  
15 【1 下から】

16 バラム「やわらかなこの乳房も、

17 さぞや、いい味がするだろう」

18  
19 【食いつくような荒々しさで、胸舐め30秒程度】

20  
21 バラム「嫌？ これほど感じて、何が嫌だ。

22 乳首を硬く尖らせて、

23 俺の舌を押し返してくるくせに。

24 ほら、強く吸ってやろう。こうやって――

25 【強く吸い上げる】

26  
27 バラム【嘲笑】はは、なんだ。

28 これだけの刺激でいったのか？

29 媚薬の効果か、天性の淫乱か……」

30  
31 【ヒロイン「淫乱なんかじゃない」】

32

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32

【1 下から】

バラム【セリフの合間に胸をなぶりながら】

ちゅ、ちゅ……何を恥じる。

貞淑な乙女であることが……ちゅ……

それほど……ちゅ……尊いか？

哀れなものだな。

貞淑さなど……ちゅ、ちゅ……

これから一夜ごとに……じゅる……

失っていくというのに」

【1 顔に近づきながら】

バラム「だが……」

【バラム、ヒロインの濡れた秘所に触れる】

SE： 触れる水音

【7 至近距離】

バラム【揶揄するように】「これほど濡らして、

男を欲しがる姫君に、失うほどの貞淑さが

残っているか疑問だな。

お前の体は俺の指を拒むどころか、

少し力を入れるだけで、ほら……」

SE： 指を挿入

バラム「あつという間に呑み込んでいくぞ。

ほら、根元まで入った」

SE： 水音ゆっくり目にねちねち



1 【7 至近距离】

2 バラム「聞こえるか？ この音が。

3 お前が俺の指で感じて、濡らして、

4 奥へとのみ込もうとする音だ。

5 ああ……素晴らしいな。

6 中がうねって、きつく締め付けてくる」

7  
8 SE：水音徐々に激しく

9  
10 バラム【騷るように】「ここは……どうだ？

11 こっちの方がいいか？

12 それとも……この、上のざらつきは？」

13  
14 SE：体が跳ねる大きめベッドの軋み

15 【8】

16 バラム「——ははっ、ここか。

17 嫌？ 違う？

18 そうか、そうか。

19 ならばここを延々とこすられても、

20 気をやりはしないだろうな？」

21  
22  
23 バラム【叱るように】足を閉じるな。

24 腰を逃がすな！

25 本当を感じていないのなら、

26 その媚びるような声もこらえてみる。

27 気高い姫らしくな」

28  
29 バラム【面白がるように】先ほどから、

30 俺の指をぎゅうぎゅうと締め付けて……

31 これでもまだ果てていないのか。

32 では、中と一緒に外側もなぶってやろう」

1 【7】

2 バラム「優しく」わかるか？

3 この、赤く充血して、濡れて震える、  
4 お前の一番感じる所のことだ」

5  
6 バラム「一度くらいは、自分で触れたことがあるか？

7 想像してみると良い。

8 薬で感度の上があった体で、

9 ここに触れられたらどうなるか……

10 見せてくれ。お前がそれでも、

11 誇り高くいられるか」

12  
13 【ヒロイン、快樂が強すぎてベッドの上でめちやくち  
14 やもがく】

15  
16 SE：激しいベッドの軋み流しつづける

17 SE：激しい衣擦れ流し続ける

18  
19 【8】

20 バラム「っはっはっはっは！

21 どうした、どうした？

22 そんなに暴れて、喚いて。

23 よもや、俺のような蛮族の指で、

24 よがり狂っているわけではないだろう？

25 ほら、どうした？ 何か言ってみろ。

26 ほら、ほら！」

27  
28 【ヒロイン絶頂】

29  
30 SE：ベッドの軋みと衣擦れストップ

31 SE： 水音終了

32

1 【1】

2 バラム「突き放すように」ふん……大したものだな。  
3 潮をふくほどよがっておいて、  
4 まだ「感じていない」と言えるとは」  
5

6 バラム「もう少し馴ってやろうかと思ったが……」

7 【少し笑って】いいだろう、終わらせてやる。  
8 うつぶせになれ。腰を高く上げ、  
9 犬のようにな」  
10

11 SE：衣擦れ

12 【5】

13 バラム「足を開くんだ。

14 お前のすべてが、俺によく見えるようにな。  
15 ……どうした？ 開け。開くんだ！」  
16  
17

18 SE：強めに尻叩く

19  
20 バラム「何を驚いている？ ああ、そうか。

21 尻を叩かれた経験など、  
22 お前の人生では一度もないか。  
23 いい機会だ、俺がお前を躡けてやろう」  
24

25 【ヒロイン、怯えて「やめて」と暴れる】

26  
27 バラム「暴れるな！」  
28

29 SE：一丁、三発尻叩く

30  
31  
32

1 【5】

2 バラム「嫌だ、やめてと言うたびに、

3 こうしてお前の尻を叩いてやろう。

4 理由がわかるか？

5 お前が悲しまないためだ。

6 お前が俺を拒絶し、俺を怒らせたら、

7 お前の大事な騎士はどうなる？」

8 【ヒロイン、はっとする】

9  
10  
11 バラム「そうだ。お前は俺に逆らえない。

12 それを、体にもきちんと教え込んで

13 やらねばな。

14 そら、こうやって！」

15  
16 SE：「一、三発尻叩く」

17  
18 バラム【叩く呼吸ください】

19  
20 【ヒロイン、痛みに泣き出す】

21  
22 バラム「ああ……泣くな、泣くな。

23 この程度、痛みのうちにも入らない。

24 お前が俺に逆らって、あの奴隷が受ける

25 痛みに比べればな」

26  
27 【バラム、後背位でヒロインにのしかかる】

28  
29  
30  
31  
32

1 【7】

2 バラム「自分の立場が分かったか？

3 では、言え。

4 旦那様、どうか子種をくださいと、

5 尻を振って懇願しろ」

6  
7 【ヒロイン、命じられるままに言う】

8  
9 【7↓5】

10 バラム「ふ……っは……はは……！」

11 はははははは！

12 そうか、そうか、俺の子種が欲しいか。

13 いいだろう。存分にくれてやる。

14 そら、一番奥まで……！【入れる】

15  
16 SE：挿入音

17  
18 【5】

19 バラム「見下すように」……ははっ！

20 奥まで一気に入ったぞ。

21 これでお前は、名実ともに俺の妻だ。

22 嬉しいだろう？ ほら、嬉しいと言え」

23  
24 SE：水音&肉を打つ音 いきなり激しめに

25 【荒々しく犯す吐息30秒程度】

26  
27  
28 【ヒロイン、犯されながらユリウスの名前を繰り返す】

29  
30  
31  
32

1 【5】

2 バラム「【上機嫌に】ふっ……は……っ。

3 つははは……！ 犯されながら、

4 下僕の名を呼ぶとは……！！

5 目を閉じていれば、誰に犯されているのか

6 忘れられると思っただか？

7 愚かな妻だ……！！

8 やはり、仕置きが必要だな！」

9  
10 SE： 尻を叩く

11  
12 バラム「ほら、こうして叩かれていれば、

13 お前を貫いているのが誰なのか、

14 忘れずにいられるだろう？

15 叩かれるたびに礼を言え。

16 ありがとうございますとな！」

17  
18 SE： ピストンに合わせて尻叩き

19  
20 バラム「ほら……っ、ほら！

21 お……おっ、締まるな……！！

22 叩かれるのが気に入ったか？

23 いい。いいぞ……今までに犯した、

24 どの女より……！！

25 く……、はあ、はあ……！！」

26  
27 【荒々しい吐息のみ30秒程度】

28  
29 バラム「ほら、いくぞ……！！

30 一番奥に、お前が望んだ子種を

31 注いでやる！」

32

1 SE： 射精音

2  
3 【バラム、数秒息を整える】

4  
5 SE： 尻軽くたく

6  
7 【5】

8 バラム「おい。起きろ。誰の許可を得て寝ている。

9 お前が気を失えば、若い連中をともなって、

10 奴隷の尻を犯しにいくぞ。

11 やつを守りたければ、全力で媚びて、

12 俺をここに縛り付けるんだな」

13  
14 【バラム、ヒロインを引き起こして騎乗位へ。体位を  
15 変える呼吸ください】

16  
17 【5↓9】

18 バラム「ほら、こい。俺の上に乗って腰を振れ」

19  
20 SE： ベッドの軋み

21 SE： 衣擦れ

22 SE： 挿入音

23  
24 SE： 水音&肉を打つ音 (100BPM程度で激しめに)

25  
26 【9 騎乗位】

27 バラム「ほら、こうして……！」

28 下からも、突き上げれば……！

29 先ほどよりも奥に、激しく届くだろう。

30 ほら、ほら………！」

31  
32

【9 騎乗位】

1 バラム「いいぞ……そう、上手くなってきた……！  
2 イきそうか？ いいぞ、存分に果てる。  
3 ほら……！ イったか？  
4 もう一度……！ ほらいけ……！  
5 はははは！  
6 ひと突きごとに果てるじゃないか……！  
7 そんな調子で……！ 朝まで気を失わずに、  
8 いられるのか？ ん？  
9 ああ、いい顔だ……！  
10 俺を睨みつける、その目……！  
11 その目が気に入ったんだ……！  
12 俺は、その目が……！」

13  
14  
15 バラム「ずっと睨んでいろ、俺のことを、  
16 そうやって！  
17 無様に犯されながら、誇りを失わずにな！  
18 はは、ははは！ はははははは！」  
19

20 SE：フェードアウト  
21

22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30



## ●トラック4 儀式(23分)

1  
2     トラック3の翌日。  
3     ソルが集落を案内してくれる。  
4     悪い暮らしではない、族長が花嫁を得たことでみんな  
5     喜んでいると伝えられるが、最後の儀式があるとして  
6     連れていかれた天幕で、ヒロインは一族のならわしと  
7     して、兄と弟の二人に凌辱されることになる。  
8

9  
10    【眠っているヒロインのところに、ソルがやってく  
11    る】

12  
13    SE:近づいてくる足音

14    SE:天幕が開く

15  
16    【ソル、ヒロインの方は見ずに、天幕の中を歩きまわ  
17    り、部屋を整える作業しながらしゃべる】  
18

19    SE:時々立ち留まる足音

20    SE:布を拾う音

21    SE:酒瓶を拾う音

22    などを織り交ぜて「天幕の中を歩き回って作業してい  
23    る」感を出す。  
24

25    【6→11】

26    ソル「おはよう、お姫様。よく眠れた？」

27    もうお昼だし、そろそろ

28    お腹が空いたんじゃない？」

29  
30    【急にソルが入ってきて、びっくりするヒロイン】  
31

1 【11 その場に立ち止まって】

2 ソル「ん？ ああ、兄さんは仕事。

3 もうすぐ冬がくるだろ？

4 だから今期の狩りで得た獲物を商人に売って、

5 食料を買って、

6 女子供が待つ集落に持って帰るんだ」

7  
8  
9 【ヒロイン「売る」という言葉に騎士が心配になる】

10  
11 【11↓16】

12 ソル【笑って】大丈夫。君の騎士は売らないよ。

13 兄さんは横暴だけど、約束は守る人だから」

14  
15 ソル「兄さんがほめてたよ。

16 兄さんみみたいな体力バカに、

17 朝まで気を失わずに

18 付き合っただって？」

19  
20 【16↓15】

21 ソル「それも、あの騎士様のためかな。

22 僕、お姫様って守られてばかりの

23 弱々しい感じを想像してたから——」

24  
25 【15 ヒロインを見て】

26 ソル「正直めちゃくちゃ尊敬してる」

27  
28 SE：ヒロインがソルを見る衣擦れ

29

30

31

32

1 【9 ヒロインを見る】  
2 ソル「そんなに警戒しないで。  
3 ほら、お近づきのしるしに、  
4 あまーい果物。食べるでしょ？」  
5

6 【ソル、ヒロインにリング投げ渡し、ヒロインは受け  
7 取る】  
8

9 SE：果物投げる

10 SE：果物受け取る

11  
12 【9】  
13 ソル「それ食べたら、ちょっと散歩しようか」  
14

15 【ヒロイン「疲れてるから……」】  
16

17 SE：首を左右に振る衣擦れ  
18

19 ソル「そっか……疲れてるならしょうがない。  
20 残念だなあ。僕、騎士様の世話を  
21 任されてるから、これから様子を見て  
22 行くんだけど……」  
23

24 【ヒロイン「行きます！」】  
25

26 ソル【楽しそうに】あっはは！ いい返事。  
27 ちょっと寒いから、この毛皮を羽織って」  
28

29 SE：ヒロインに歩み寄る

30 SE：毛皮のマントばさり

31  
32

1 【1】  
2 ソル「騎士様に合いに行く前に、  
3 お風呂に入った方がいい。  
4 君も、その状態で騎士様に会うのは  
5 嫌でしょ？」  
6

7 【ヒロイン、うなづく】  
8

9 【1】  
10 ソル「お湯の用意はもうできてるから。  
11 誰にもぞかれないように、  
12 僕が見張ってあげる。  
13 安心して体を伸ばしてね」  
14

15 SE：二人分の足音フェードアウト  
16 時間経過の間

17 SE：二人分の足音フェードイン

18  
19 SE：重たい天幕の布を開ける  
20

21 【ユリウス、天幕に入ってきたヒロインに気づいて檻  
22 に飛びつく】  
23

24 【6】  
25 ユリウス「姫さま！」  
26

27 SE：小走りで檻に寄る

28 SE：金属製の檻が軋む

29  
30 【ユリウスとヒロイン、鉄格子ごしに抱き合う】  
31

32

1 【1↓3】

2 ユリウス「どうか、こちらに……！」

3 あなたを抱きしめさせてください。

4 ああ、姫さま……！」

5

6 SE：鉄格子越しに抱き合う衣擦れ

7

8 【3】

9 ユリウス「よかった。あの蛮族に殺されている

10 のじゃないかと、心配で……！」

11 【しばし抱き合い匂いかぐ】

12

13 【ヒロイン「酷いことされてない？」】

14

15 SE：離れる衣擦れ

16

17 【1】

18 ユリウス「私ですか？

19 見ての通り、大丈夫です。

20 【無理に笑って】この状況で、

21 ご自分よりも私の身を案じて

22 くださるなんて……！」

23

24 【1↓3 話しながら抱き寄せる】

25 ユリウス【真剣な声色で】姫様。

26 もういちど、抱きしめさせてください。

27 あなたの無事を体で感じたい」

28

29 SE：鉄格子越しに抱き合う衣擦れ

30

31

32

1 【3 超小声で】  
2 ユリウス「昨夜、私を見物に来た少年に、  
3 ペンダントをやる代わりに、  
4 脱出の手引きを頼みました。  
5 いつになるかはわかりませんが、  
6 時を見て必ずお助けに参ります」  
7

8 【ヒロイン無言でうなづく】  
9

10 【3 超小声で】  
11 ユリウス「愛しています、姫様。  
12 神々と、祖先の名にかけて、  
13 必ずあなたをお救いすると誓います。  
14 だからどうか、  
15 もう少しだけ、耐えてください」  
16

17 【5↓4 背後から引っ張って抱きすくめる】  
18 ソル「はいそこまで」  
19

20 SE：引きはがす衣擦れ

21 【9】  
22  
23 ユリウス「姫様……！」  
24

25 【4】  
26 ソル「ダメだよ、あんまり怪しい空気出したら  
27 脱走の相談でもしてるのか？  
28 って疑われても困るでしょ？」  
29

30 ソル「ほら、君の大事な騎士様は無事だったんだ。  
31 約束を守った兄さんのために、  
32 君の花嫁としての義務を果たさなくちゃ」

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32

【ヒロイン、振り向いて「義務？」と聞く】

SE：振り向く衣擦れ

【2】

ソル「そう、義務。

【朗らかに】大丈夫、大したことじゃないよ。

ちよっとした儀式をやるだけ。

さ、行こう。奴隸君にバイバイして」

SE：足音

SE：天幕の重い布の開閉

【ソルとヒロイン、並んで歩く】

【ヒロイン「似てないんですね」】

【8 ヒロインを見ながら】

ソル「——え？ ああ、僕と兄さん？

確かに、全然似てないよね。

兄さんとは母親が違うんだ。

母さんはお姫様と同じ、町の出身でさ。

すごくきれいで、優しい人だった」

【ヒロイン「だった？」】

【8 進行方向を見ながら】

ソル「……死んだんだ。十年前に。

だから、僕の家族は兄さんだけ」

1 【ヒロイン気の毒そうにする】

2

3 【8 ヒロインを見ながら】

4 ソル「そんな顔しないで。昔の話だよ。

5 【朗らか】それに、これからは

6 お姫さまもいるしね。

7 兄さんはああ見えて君のこと、

8 すっごく気に入ってるんだ。

9 だからお姫さまも早く、

10 ここでの生活に慣れてくれたら嬉しいな」

11

12 SE：足音フェードアウト

13

14 移動する間

15

16 SE：足音フェードイン

17 SE：天幕の重い布開ける

18

19

20 【7 9を見ながら】

21 ソル「兄さん、お姫様連れてきたよ」

22

23 【9】

24 バラム「随分遅かったな」

25

26 【3】

27 ソル「あれ？ もう準備できてたんだ。

28 もう少し時間かかると思ってた、

29 軽く散歩してたんだ」

30

31 ソル「僕ってほら、女の人とえっちする時は

32 心の交流も大事にしたい性格だから」



1  
2 【ヒロイン、めちやくちやぎよつとする】  
3

4 【1 ヒロインのほうを向きながら】

5 ソル「ん？ ああ、そう。

6 儀式っていうのは、

7 兄弟で花嫁を犯すことなんだ。

8 そうすれば一番優秀な子種が残るからね」  
9

10 ソル【楽しそうに】生まれた子供は、

11 三人の子供として大切に育てるんだ。

12 君と僕たちの子供なら、きつと

13 とつても可愛い子が生まれるよね。

14 楽しみだなあ」  
15

16 ソル「あっはははは！

17 ひっどい間抜け面。

18 ちよつと親切にしてやっただけなのに、

19 僕のこと優しい人だとも思った？

20 ざあんねんでした！。

21 僕はね、君のことが嫌いで嫌いで

22 仕方ないんだよ！」  
23

24 【ヒロイン「どうして？」】  
25

26 ソル「どうして……？」

27 【吐き捨てるように】自分で物事を考える

28 頭も持っていないんだな、君は。

29 それじゃ、何も知らない愚かなお姫さまに

30 教えてあげようか」  
31

32

1 【3 耳元で】  
2 ソル「内緒話をするように」僕の母さんを  
3 殺したのは、君の父親だよ」  
4

5 【1】

6 ソル「蛮族狩りって知ってる？  
7 草原の民をまるで獣のように追い回して、  
8 捕らえて、最後はなぶり殺すっていう  
9 『文明人』たちの胸くそ悪い暇つぶしき。  
10 母さんだけじゃない。  
11 何人もの草原の民が犠牲になった。  
12 お姫様の国では「討伐」って呼ぶんだっけ？」  
13

14 【ヒロイン「そんなの知らなかった」】

15  
16 ソル「知らなかった？  
17 そうだよねえ。  
18 お城で大事に育てられたお姫様は、  
19 自分の父親が何をしてたかなんて、  
20 ちっとも知らないよねえ。」  
21

22 【1】

23 ソル「我が子の人質に取られた母親が、  
24 首を絞めながらかわるがわる犯されて、  
25 少しずつ動かなくなっていく姿を  
26 目の前で見せつけられた  
27 子供の気持ちなんて、  
28 知るはずもないよねえ!？」  
29

30 【ヒロイン何度も謝る】

31  
32

1 【1】

2 ソル「少し悲しそうに」

3 別に、謝ってほしいわけじゃないんだよ、  
4 お姫様。

5 謝られても、母さんは戻ってこないし、  
6 僕の耳に張り付いてる悲鳴も消えない。

7 ——ただ、償ってほしいんだ」

8  
9  
10 【ヒロイン「つぐなうって？」】

11  
12 バラム「一族の者を殺した罪は、

13 一族の子を産むことで償わせる。

14 そのために、この女を花嫁にしたんだ」

15  
16 【3 耳元で】

17 ソル「ねえ、お姫さま。

18 これからいっぱい、子供作ろうね。

19 僕が君のこと、家族だって思えるくらいに」

20  
21 【ソル、ヒロインを抱えてベッドに放り投げる】

22  
23 SE：抱える衣擦れ

24 SE：足音

25 SE：木製のベッドがきしむ

26 SE：ベッドにヒロインが落ちるドサリ

27 SE：服を破く音

28  
29 【ソル、一連のSEを想定して息遣いください】

30  
31  
32

1 【1】  
2 ソル「ディープキスしながら」  
3 ん、ちゅ……。唇ふわふわ。  
4 舌も柔らかいし……。  
5 あは、舌吸われるの、気持ちいいんだ？  
6 身体びくびくしてる。  
7 ……ね、おっぱいも触ってあげよっか」

SE：胸まさぐる

10  
11 ソル「あれ？ もう乳首たってる。  
12 キスだけで感じちゃった？  
13 あはは、かーわいい。」

14  
15 【9 ソルの背後から】  
16 バラム「おい、何をじゃれてる。  
17 女の犯し方も知らないのか？  
18 ——俺にも貸せ」

19  
20 【ソル、バラムに肩をつかまれて背後に下げられる】

21  
22 【1↓9】  
23 ソル「え。何？  
24 ちよつと、兄さん！」

25  
26 【1】  
27 バラム「起きろ。  
28 横になっているだけで  
29 子種をもらえろと思ってるのか？  
30 花嫁の務めを教えてやる」

31  
32 SE：体勢変えさせるゴソゴソ

1  
2 【バラム、ベッドサイドに立った状態で、ベッドの上  
3 にいるヒロインにしゃぶらせる】  
4

5 【1 上から】

6 バラム「しゃぶれ。たっぷりと唾液を絡めてな。

7 歯を立てたりしたら、

8 お前の騎士がどうなるか……わかるな？」  
9

10 SE： 口に挿入

11  
12 バラム「もつと頬の内側に力を込める。

13 竿に吸い付け。

14 そんなことでは俺を満足させられんぞ。

15 ほら……こうするんだ！」  
16

17 SE： イラマピストン激しめ

18  
19 【ソル、しゃべりながら再びベッドに上がり、ヒロイ  
20 ンの背後に回る】  
21

22 【9↓13】

23 ソル「兄さんがしゃぶらせてるなら、

24 僕はもう入れちゃっていい？

25 兄さんは昨日さんざんやったんだから、

26 僕が先でもいいでしょ？」  
27

28 SE： ベッドの軋み

29  
30 【1 上から】

31 バラム「ああ、犯してやれ。

32 動物のようにな……！」

1  
2 【バラム、ソルのセリフ裏で使う、激しめのイラマ呼  
3 吸をいただきました！】  
4

5 【5】

6 ソル「ほら、お姫様。

7 お尻こっちに突き出して。

8 足を大きく開いて〜。

9 【若干引きながら】うっわ、ドロツドロ。

10 お尻のほうまでずぶ濡れだ。

11 【嘲笑】まさか、兄さんのしゃぶりながら、  
12 興奮してんの？

13 貞淑なお姫様どころか、

14 淫乱のど変態じゃん。」

15  
16 【5】

17 ソル「お尻の穴まで、物欲しそうにヒクヒクしてる。

18 悪いお姫様だなあ。

19 騎士様とそういう遊び、してたとか？」

20  
21 【5】

22 ソル【セリフ終わりと同時に一気に挿入】

23 慌てないで。そっちも後でちゃんと

24 可愛がつてあげるから——さ！」

25  
26 SE：挿入音

27  
28 【ソル、しばらく最奥にとどまったまま動かない】  
29  
30  
31  
32

1 【5】

2 ソル「あ……あつ、気持ちいい。

3 すごいよ、お姫さま。

4 中がぎゅって締め付けてきて……。

5 今まで抱いた、どんな女より気持ちいい。

6 はっ……兄さんが、気に入るわけだ。

7 動くよ……

8 奥までガンガン突いてあげる……！」

9  
10 【ソル、吐息のみ30秒程度】

11

12 SE：出し入れする水音

13 SE：肉を打つ音（100BPM程度で激しめに）

14

15 ソル「これ、本当にすっごい……。

16 ん、あ……っ。僕、もう駄目かも。

17 こんな気持ちいいの、初めてで……！」

18

19 【ソル、高まる快感に声を震わせ、激しくヒロインを  
20 責め立てる】

21

22 【5】

23 ソル「うあ……っ、出る……出る……っ

24 あ、ああ……！」

25 は、あ……！」

26

27 SE：射精音

28

29 【ソル、快樂の余韻に数秒息整える】

30

31 SE：イラマピストンゆっくりめ

32

1 【1】  
2 バラム「【含み笑い】もう終わりか。  
3 随分と早かったな」  
4

5 ソル「【ふてくされ】だって仕方ないよ。  
6 こんなので、すぐイくなって言う方が無理」  
7

8 バラム「まあ、確かにそうだ。  
9 こちらもそろそろ……、おっ。  
10 く……っ。全部飲み込めよ……っ」  
11

12 【十秒程度、激しめの吐息のみ】  
13

14 SE： 射精音  
15

16 【バラム数秒息整える】  
17 【ヒロイン、ベッドに倒れこむ】  
18

19  
20 SE： 木製のベッドの軋み  
21 SE： ヒロインが倒れこむドサリ  
22

23 【5】  
24 ソル「あらら、兄さんが乱暴にするから、  
25 お姫様のきれいな顔が、  
26 涙と鼻水でぐちゃぐちゃだ」  
27

28 ソル「【明るく】ねえ兄さん。  
29 次、前と後ろ同時に犯すやつやろうよ。  
30 僕は後ろでいいからさ」  
31  
32



1 【1】

2 バラム「かわいい弟へ」仕方のないやつだな」

3  
4 【バラム、ベッドに上がって仰向けに】

5  
6 SE：ベッドの軋み

7 SE：シーツの衣擦れ

8  
9 バラム【ヒロインに向かって】

10 おい、いつまで休んでるつもりだ？

11 ソルの話を聞いてなかったのか。

12 早く俺の上にまたがれ」

13  
14 【命じられて、のろのろ従うヒロイン】

15  
16 SE：ベッドの軋み

17 SE：シーツの衣擦れ

18  
19 バラム「足を大きく開いて、

20 ゆっくり腰を落とすんだ」

21  
22 SE：膣挿入音（ゆっくり）

23  
24 バラム「昨日より、随分とすんなり

25 入るようになったな。

26 これなら、お前も楽しめるだろう。

27 どうした？ そんなに腰を揺らして。

28 早く動いてほしいのか？

29 おい、ソル。

30 我が妻は早く後ろも犯してほしいそうだ」

31  
32

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32

【5】  
ソル「姫君のご所望とあらば……。  
【おどけて】なんてね。  
じゃあお姫さま、行くよ  
あ、ああ……ッ」

SE： アナル挿入音

ソル「う……わ。すっごい。  
中が見さんので圧迫されて、きつきつだ。  
ゆっくり慣らしていかない  
と、裂けちゃいそう」

SE： 二人分のピストン (50BPM程度でねちねち)

バラム「くっ……前もかなり狭いな。  
おい、少し上体を倒せ。  
胸を舐めてやる」

【バラム、ソルのセリフ裏で胸吸ったり舐めたりする  
音ください】

ソル「族長に奉仕してもらえるなんて、  
お姫さまは幸せものだね」

【3 耳元で】  
ソル「ね、兄さんにおっぱい可愛がられるの、  
気持ちいいっ。」

【ヒロイン、答えられない】

1  
2 【体を伏せてヒロインの耳元にささやいていたソル、  
3 ヒロインの反応がないので状態を起こす】  
4  
5

6 【3↓5】

7 ソル「……あれ、返事がないなあ」

8 SE：尻叩く

9  
10 【5】

11 ソル【荒く】……ねえ、

12 気持ちいいかって聞いているんだけど。

13 質問にはちゃんと答えるよ！

14 なあ。なあっ！」

15  
16 SE：「なあ」に合わせて太股二発叩く

17  
18 【ヒロイン、泣きながら「気持ちいい」と答える】  
19

20 ソル「そっかそっか、気持ちいいか♪

21 じゃあ、ほら。

22 こうして奥の方も、

23 ぐりぐりっしてあげる。

24 そうすると、ほら……！

25 あっはは！ ビクってなった。

26 お姫様は、お尻の奥をぐりぐりされるのが

27 気に入ったみたいだね♪」  
28  
29  
30  
31  
32

1 【8】  
2 バラム【楽しげ】ふっ、すごい声だな。  
3 初めて前と後ろを同時に犯されて、  
4 これほどとろけた顔をするとは……。  
5 やはりお前は、真性の淫乱だ」  
6

7 【バラム、ヒロインの腹をぐりぐり押す】  
8

9 【8】  
10 バラム「ほら、俺たち二人の犯されて、  
11 お前の腹がいびつに  
12 膨らんでいるのがわかるか？  
13 腹の上から触れてみる。  
14 ここに、俺たちの熱を感じるだろうか？  
15 腹の上からこうやって、強く押すと……」  
16

17 【体外ポルチオでヒロインが派手にイク】  
18

19 SE:ベッドが激しくきしむ  
20

21 バラム「つくつく……気に入ったようだな。  
22 何度でも押してやろう。  
23 力を入れるたびに、  
24 面白いように果てるじゃないか。  
25 ほら、ほら……！」  
26

27 【5】  
28 ソル【切羽詰まって】ちょっと、兄さん……！  
29 それ、僕もヤバイから……！」  
30  
31  
32

1 【8 5を見て】  
2 バラム「なんだ。我が弟のくせに、  
3 まだまだ女慣れが足りないようだな」  
4

5 【5】  
6 ソル「これからお姫様で慣れていくから、  
7 いいんだよ……！」  
8

9 【4 耳の後ろから】  
10 ソル「ああ、もう兄さんと結婚したんだから、  
11 姉さん、って呼んだ方がいい？  
12 って……イキすぎて答えられないか。  
13 ね、オレもそろそろ限界。  
14 もうイっていい？  
15 ねえさんのお尻の中に、  
16 全部出しちゃっていいよね？」  
17

18 バラム「こらえ性のない弟だ。  
19 いいだろう。ほら、俺に動きを合わせろ。  
20 お前の新しい姉上を、  
21 俺と交互に貫いてやれ！」  
22

23 SE：出し入れする水音×2 (100BPMくらいで激し  
24 く)

25 SE：肉を打つ音 (騎乗い&バックアナルなので、前  
26 後から聞こえていてほしいです)  
27

28 【ソル、バラム、ともにづかいのみ、30秒程度お願  
29 いします】  
30

31 ソル「はっ、はあっ、いい……っ。  
32 僕、また出ちゃう……っ」

1  
2 【1】  
3 バラム「ああ、俺もだ……！  
4 くそつ。イクぞ。  
5 しっかり受け止めろ……！  
6 俺と弟の子種を、ありがたくな……！  
7 くっ……」

8  
9 SE： 射精音二人分  
10

11 【ソル、バラム、ヒロインの体を開放しつつ、十秒程  
12 度息整える】  
13

14 SE： 抜く音二人分  
15

16 バラム「くくっ……。いい顔になったな。  
17 俺の妻にふさわしい、  
18 快樂に素直なメスの顔だ」  
19

20 【5】  
21 ソル「今ので赤ちゃん、できたかなあ？  
22 どっちの子供かは、  
23 髪の色を見たらわかるよね？  
24 兄さんより先に、  
25 僕の子供ができちゃったりして」  
26

27 バラム「そういう軽口は、  
28 もう少し女の抱き方を  
29 覚えてからにするんだな」  
30

31 ソル「僕だって、別に始めてってわけじゃ……」  
32

1 【1↓11】

2 バラム「ああ、わかっているさ。

3 それより、腹が減った。

4 食糧庫で肉でもくすねてこよう」

5

6 【バラム、ベッドから降りて外に向かう】

7

8 SE…ベッドを降りる音

9

10 【5】

11 ソル「やった！ 僕もお腹減ってたんだ！」

12

13 【3】

14 ソル「姉さんにも、何か食べ物持ってきてあげる。

15 そうしたら、またいっぱい子作りしようね♡」

16

17 SE…ベッドを降りる音

18

19 SE…去っていく足音二人分フェードアウト

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

1 ●トラック5 宴（12分）

2 トラック④から更に②週間後くらい。  
3 ヒロインを連れて逃げる計画が失敗に終わり、バラム  
4 とソルに奉仕するよう強いられるヒロインを見せつけ  
5 られ、絶望するユリウス。

6  
7  
8 SE：天幕バサリ

9  
10 【9】  
11 バラム「我が妻よ。少し、見せたいものがある。  
12 ついてきてくれ」

13  
14 【ヒロイン、バラムに呼ばれて天幕を出る】

15  
16 SE：ヒロインの足音

17  
18 【ヒロインが隣に来るのを待ち、歩き出すバラム】

19  
20 SE：二人分の足音

21  
22 【3 隣を歩く距離】

23 バラム「お前がここにきて、もう二週間になるな。  
24 自害するか、騎士を見捨てて逃げ出すか……  
25 いずれにしろ、長くはもたないと  
26 思っていたが、存外に耐えている」

27  
28 【ヒロイン、複雑そうな表情でバラムを見る】

29  
30  
31



1 【3 隣を歩く距離】

2 バラム「褒めているんだ。

3 一人か二人、無理やり子を産ませれば、

4 壊れてしまってもいいかと思っていたが……

5 これほど心の強い女ならば、

6 お前を生涯唯一の妻とするのも悪くない」

7

8 SE:足音ストップ

9

10 【立ち止まり、ヒロインと向かい合うバラム】

11

12 【1 向かい合う】

13 バラム「お前は俺に忠誠を誓っている。

14 ——そうだな？」

15

16 【ヒロイン「もちろんです」】

17

18 バラム「当然、逃亡を企てたりなどしていない」

19

20

21 【ヒロイン、何かを察して少しひきつる】

22

23 【3】

24 バラム「俺は、お前を信じていいんだな？」

25

26 【ヒロイン、何度もうなずく】

27

28 【1】

29 バラム【機嫌よく】ならばいい。

30

31 見せたいものは、この天幕の中だ。  
32 入れ」

1 SE：突き飛ばす音

2 SE：よろける足音

3 SE：天幕がバサリ

4  
5 【ヒロインが天幕に入ると、後ろ手に縛られたユリウスが床に転がされており、その横にソルが立っている】

6  
7  
8  
9 【9】

10 ソル「あ、来た来た。

11 よかったねえ、騎士様。

12 大事なお姫様に会いたかつたんでしょ？

13 兄さんが連れてきてくれたよ♪」

14  
15 【9】

16 ユリウス「ひ、姫様……！」

17  
18 【ヒロイン「ユリウス……！」】

19  
20 【4 耳たぶの後ろから】

21 バラム「あの騎士は、お前の献身と、

22 我々の温情を踏みにじり、

23 我が一族の子供をたぶらかして

24 脱出を企てた。

25 耐え難い裏切りだ。

26 どう処分すべきだと思う？」

27  
28 【ヒロイン「許してあげてください……！」】

29

30

31

32

1 【4↓3 ぐっと近づく】

2 バラム「脅す」許せ？ 許せというのか？

3 無条件で？

4 我が妻よ……よもやと思うが、

5 騎士が逃亡を企てていると、

6 事前に知っていたわけではあるまいな。

7 知っていないながら、

8 俺に黙っていたわけではあるまいな？

9 騎士とともに逃げ出そうなどと、

10 愚かな夢を見てはいないだろうな？

11 【低く静かに脅しつける】

12 もう一度聞くぞ？

13 俺を裏切ってはいないだろうな……！」

14

15 【ヒロイン「裏切っていません」】

16

17 【4 斜め後ろに立つ距離】

18 バラム「少し穏やかに」そうか……

19 では、すべてあの騎士が自分で勝手に

20 しでかしたということだな？」

21

22 【ヒロイン「そうです」】

23

24 【4】

25 バラム「お前へのかなわぬ思いを拗らせて、

26 望まれてもいない逃亡劇をたくらみ、

27 しくじった。

28 そう考えると、なるほど……

29 殺すのも哀れな間抜けさだ。

30 いいだろう。許してやる。

31 だが、二度と同じ過ちを繰り返さぬよう、

32 きちんと躰けをしてやらねばな」

1  
2  
3 【9】  
4 ソル「兄さん、許してくれるってさ。  
5 姉さんがとりなしてくれただね」

6 【9】  
7 ユリウス「黙れ！  
8 姫様……どうか、私のことはもう  
9 死んだものとお考え下さい！  
10 【セリフ終わりで腹をけられる】  
11 私のために、蛮族どもの命令になど、  
12 もう従わなくていいので——うぐあ！」

13  
14 【9 下を見ながら】  
15 ソル【蹴る呼吸】  
16 逃げ出そうとして捕まるような  
17 無能のクセに、  
18 許可もなくしゃべるなよ。  
19 お前をどうするか決めるのは兄さんだ。  
20 生きるのも、死ぬのも、  
21 お前に選ぶ権利はないんだ——  
22 【蹴る】よ！」

23  
24 【9】  
25 ユリウス「あぐ……！」  
26  
27 【ヒロイン「やめて！」】  
28  
29 ソル「やめて？ なんで？  
30 躰けをしてるだけだよ、姉さん。」  
31  
32

1 【4 斜め後ろに立つ距離】

2 バラム「よせ、ソル。」

3 我が妻は暴力を恐れているようだ。  
4 お前の母がそうだったように」

5  
6 【9】

7 ソル「え？ ああ……」

8 そっか、ごめん。

9 こわかった？

10 もうしないよ。

11 姉さんが嫌がるようなことは、さ」

12  
13 バラム「しかし、暴力がダメとなると、

14 別の躰を考えねば。

15 そうだな……

16 ああ、いいことを考えた」

17  
18 【4 耳に触れる距離】

19 バラム「我が妻よ。

20 俺の妻になれてどれほど幸福で、

21 毎日を楽しく過ごしているか、

22 あの騎士に教えてやってはどうだ？

23 二度とお前を連れて逃げ出す気など

24 起こさぬように。

25 やつが心からの服従を示しさえすれば、

26 いつかはやつを、お前専属の

27 奴隷として取り立ててやることもできる」

28  
29 【ヒロイン、逃げ出すのを諦め、ユリウスを自分専属  
30 の奴隷にもらうために徹底的にバラムに媚びるこ  
31 とを心に決める】  
32

1  
2  
3 【3 背後から】  
4 バラム「どうすれば、騎士にそれを伝えられる？  
5 ん？ 我が妻よ。  
6 お前の言う通りにしてやろう」

7  
8 【耳舐め30秒程度】

9 【ヒロイン、バラムが何を言わせようとしているか察  
10 し、泣きながら「ここで抱いてください」と懇願す  
11 る】

12  
13 【3 耳をなめながら】

14 バラム「ちゅ、じゅる……うん？ 抱いてほしい？  
15 れる……ちゅ……ちゅる……  
16 ここで？ 騎士の前でか？」

17  
18 【ユリウスのセリフの裏で耳舐めの音が欲しいので、  
19 20秒程度耳舐めのみ】

20  
21 【6】

22 ユリウス「姫様……そんな……！  
23 やめてください、私のために、そんな！」

24  
25 【3 耳をなめながら】

26 バラム「騎士はああ言っているが……  
27 れる……はむ、ちゅ……  
28 どうする？ ちゅ、ちゅ……

29 お前は本当に、  
30 騎士の前で俺に抱かれないのか？  
31 どうしても？」

32

1 【ヒロイン】「どうしても抱いてほしい」

2  
3 バラム「かわいいことを言う。

4 いいだろう。

5 そこまで言うのなら……」

6  
7 【バラム、ヒロインを床に突き飛ばす】

8  
9 バラム【ヒロインを床に突き飛ばす呼吸】

10

11 SE:床に突き飛ばす音

12 SE:倒れる音

13  
14 【4↓13】

15 バラム「望み通り、犯してやろう」

16

17 【9】

18 ユリウス「姫さま！ 貴様、蛮族の分際で

19 よくも姫さまにそんな真似を……！」

20

21 【13 9の方を向いて】

22 バラム「自分の妻をどのように扱おうが、

23 俺の勝手だ。

24 【嘲笑】それに我が妻は、

25 ひどく扱われるのがいらしいからな。

26 知らなかったか？

27 だろうな……貴様は我が妻の裸体すら、

28 見たことがないのだから」

29

30 ユリウス「戯言を……！」

31

1 【バラム、うつぶせに倒れているヒロインに歩み寄  
2 り、仰向けにする】

3  
4 SE…足音数歩

5 SE…しゃがむ衣擦れ

6  
7 【13↓1】

8 バラム「そこで見ている。

9 愛しい女が、【ここで1に移動】

10 どれほど男好きで淫らな雌犬かを」

11  
12 SE…体勢変えさせる音

13 SE…衣服破る

14  
15 ユリウス【悲痛に】よせ！ 姫様に触るな！

16 姫さま！ 姫様あ！」

17  
18 【13↓5】

19 ソル「あ、待ってよ兄さん！ 僕も混ざる！」

20  
21 【ソル、ヒロインの背後に駆け寄る】

22  
23 【13】

24 ユリウス「姫さま！ 姫さま、私を見てください！

25 何があっても、

26 私は姫さまを信じていますから……！」

27  
28 【5】

29 ソル「うるっさいなあ……

30 兄さん、ちよつと姫様の体、

31 あの騎士様に向けてやってよ。

32 感じてる顔がよく見えるようにさ」



1  
2 【1↓5】  
3 バラム「なるほど。いい考えだ。  
4 そら、あちらを向け。」  
5

6 SE：体勢変えさせる音  
7

8 【4 背後から】  
9 バラム「体を隠すな。  
10 お前がどれだけ淫らな身体をしているのか、  
11 やつにたっぷりと見せてやるといい」  
12

13 【6 背後から】  
14 ソル「ほら、姉さん。  
15 この前教えたみたいに、  
16 自分でおっぱい持ち上げて。  
17 両方のおっぱいを僕たちに舐めさせてとこ、  
18 騎士様にしっかり見てもらおう？」  
19

20 【バラム・ソルそれぞれヒロインの胸しやぶる。10  
21 秒程度】  
22

23 【2 下から】  
24 バラム「【10秒程度なめる芝居】」  
25

26 【8 下から】  
27 ソル「【10秒程度なめる芝居】」  
28

29 【9】  
30 ユリウス「【声を失う感じ】あ……あ……  
31 姫様……姫様……」  
32

1 ソル「ん……っ、ちゅっ……れる……。

2 ああ、姉さんのおっぱい、美味し。

3 見て、

4 騎士様が物欲しそうにこっち見てるよ」

5  
6 【2 9（ユリウス）を見る】

7 ソル「僕たちが羨ましいんだね。

8 でも、わけてあげないよ」

9  
10 【2 ヒロインの顔を見ながら】

11 ソル「姉さんは僕たちのモノなんだから。

12 ねえ、兄さん？」

13  
14 【胸しゃぶりここまで】

15  
16 【4】

17 バラム「いいや。

18 お前にも貸してはやるが、

19 あくまで俺の妻だ」

20  
21 【3 耳元で】

22 バラム「そうだろう？」

23 お前が一番抱かれないのは、

24 部族で最も強い男である、この俺だ。

25 ほら、言ってみろ。

26 お前は誰のものだ？」

27  
28 【ヒロイン、バラムのものだと答える】

29  
30 バラム【満足げに】「そうだ。

31 よくわかってるな」

32

1 【2↓3】

2 ソル「ええ？ 俺は仲間外れってこと？

3 ひどいなあ……

4 僕だって、姉さんのことを

5 喜ばせてあげられるよ？」

6  
7 【耳元で】

8 ソル「さつき兄さんに耳舐められて、

9 気持ちよさそうにしてたよね。

10 僕もやってあげる。こうやって……

11 【セリフのいい終わりから耳舐め】

12  
13 【ソル、耳舐め30秒（バラムのセリフ裏）

14  
15 【7 耳元で】

16 バラム「ふん……耳をなめられたくらいで、

17 大げさに感じるじゃないか。

18 どうした？ 腰が揺れているぞ。

19 もどかしくてたまらないか？

20 お前の体は、腹の奥深くまで

21 男のものをくわえ込みたくて

22 うずうずしているようだな」

23  
24 バラム「——ほら、足を開け。

25 俺の胸に背を預けて。

26 自分の指で広げて見せろ」

27  
28 SE： 姿勢変えるゴソゴソ

29 SE： 触れる水音

30

31

32

1 バラム「そのまま、自分の指で慰める。  
2 中指と薬指を、奥まで入れて」  
3

4 SE：指を出し入れする水音、ゆっくりめに  
5

6 バラム「出して、入れて、出して……  
7 自分の一番いいところを、  
8 あの騎士に教えてやれ」  
9

10 【ソル、耳舐めここまで】  
11

12 【7】  
13 ソル「姉さん、すっごくいやらしい。  
14 中からとろとろあふれてくるよ」  
15

16 【3 ささやくように】  
17 バラム【満足げ】すっかり整っているな。  
18 そろそろ、待ちわびたものを  
19 入れてやるとしよう。  
20 ほら、自分から腰を上げろ。  
21 俺を受け入れるところを  
22 やつにしっかり見せつけてやれ」  
23

24 SE：挿入（ゆっくりめ）  
25

26 【3】  
27 バラム【息荒い】そうだ。上手いぞ。  
28 く……あ……っ。すごいな。  
29 初めからこんなに締め付けて。  
30 【愉悦】昨晚もたっぷり可愛がって  
31 やったのに、まだ足りないか」  
32

1 バラム「ならば……望み通り、  
2 奥の奥を、  
3 穿ってやろう【奥まで貫く】」  
4

5 SE：出し入れする音（100BPMくらいでいきなり激し  
6 く）  
7

8 バラム「なんだ、その派手な嬌声は。

9 もうイったのか？

10 ほら、自分から腰を揺らせ！

11 俺を愛していると叫びながらな！」  
12

13 【7】

14 ソル「不満げに」兄さんってば、

15 その体位じゃ僕が混ざれないじゃん」  
16

17 【3】

18 バラム「ヒロインを激しく犯しながら」

19 口なら、開いてるぞ……！」  
20

21 【バラム、ヒロインを荒々しく犯す呼吸のみ1分程  
22 度。ソルのセリフ裏で途切れない長さが欲しいです】  
23

24 ソル「しようがないな……」  
25

26 【ソル、立ち上がってヒロインにしゃぶらせる】  
27

28 SE：7から1に移動する足音  
29

30 【9】

31 ユリウス「ふざけるな！ よせ！

32 姫様に何をさせる気だ！」

1  
2  
3 【1 上から】  
4 ソル「何って、おしゃぶりだけど？  
5 ほーら、姉さんの大好物だよ。  
6 騎士サマに、お口でも上手にできるところ、  
7 見せてあげようね。  
8 はい、あーん」

9 SE: おしゃぶりフェラ

10  
11 【9】  
12 ユリウス「姫様！ そんなやつのも、  
13 噛み切ってやればいいんです！  
14 こんな辱めを受けるくらいなら、  
15 私はともに死んでもいい！  
16 姫様もそうでしょう？  
17 こっちを見てください、姫様！」

18  
19 ソル【独り言】ばっかだなあ……  
20 お前を守るために、  
21 必死にがんばってくれてんのにさ」

22  
23 ソル「あー……  
24 やっぱり姉さんの口の中って、最高。  
25 あったかくてぬるぬるで、  
26 柔らかくって……」

27  
28 ソル「気持ちい……  
29 ああ、これ……またすぐ出そう……  
30 騎士様の前で、恥ずかしいな。  
31 あ、ああ……！」

32

1 【バラム・ソル共に荒い呼吸二十秒程度】

2

3 【3 背後から】

4 バラム「ああ、いいぞ……よくなってきた……！

5 わかるか？

6 お前の中で、俺が一段と大きくなるのが。

7 一番イイトろこに当たるだろう？

8 くるぞ、一番大きな快樂が……！

9 弟のを噛み切るなよ？

10 喉の一番奥までくわえこんで……そうだ。

11 最後の一滴まで、搾り取ってやれ……！」

12

13 【1 上から】

14 ソル「あ、ああ……！ 待って姉さん……！

15 それやば……も、無理……！

16 あ、ああ……！」

17

18 バラム「はあ、はあ……！

19 ん、ぐ……！

20 はあ、はあ……！

21 ぐう……おおっ……」

22

23 SE： 射精音二人分

24

25 【バラム・ソル、数秒息を整える】

26

27 【4】

28 バラム「はあ……はあ……はははっ。

29 どうした。我が妻よ。

30 今までで一番乱れていたじゃないか。

31 見られながら犯されるのが好みのような。

32 いいことを知った」

1 【4】  
2 バラム「騎士の躰はこのくらいにして、  
3 頑張ったお前への褒美をやるう」  
4

5 【3 耳元で】  
6 バラム「今から一族の男たちを全員集めて、  
7 連中に見せつけながら犯してやる。  
8 盛りのついた若者が  
9 乱入してくるかもしれんが、  
10 淫乱なお前には丁度いいだろう」  
11

12 【バラムの性器抜く】  
13

14 【4↓3】  
15 バラム「さあ、こい。今夜は夜通しの宴となる」  
16

17 【バラム、ヒロインを抱き上げ、歩き出す】  
18

19 SE：ヒロインを抱き上げ、歩き出す  
20

21 ソル「ねえ兄さん、それって僕も  
22 混ざっていいやつ？  
23 次は僕も入れさせてよ？ ね？ いいよね？」  
24

25 SE：二人分の足音  
26

27 SE：天幕の布をまくる  
28

29 ユリウス「よせ、連れて行くな……………！  
30 その人を返せ……………！  
31 私のすべてなんだ……………！  
32 頼む……………頼むから……………。  
33 頼む……………頼むから……………。  
34 姫様……………！ 姫様ああああ」



【ユリウスの悲鳴フエードアウト】

1  
2  
3  
4  
5

fin